

## 文献

- Benner, P. (2001/2005). 井部俊子, 井村真澄, 上泉和子, 新妻浩三(訳), ベナー看護論: 初心者から達人へ (pp.21-22). 医学書院.
- 舟島なをみ(編). (1999). 質的研究への挑戦(第2版). 医学書院.
- 林裕子, 日高紀久江, 小野田麻衣, 福良薫. (2015). 急性期病院における意識障害患者の実態と看護の課題. 北海道科学大学研究紀要. 39, 1-8. <http://id.nii.ac.jp/1237/00000101/>
- 日野浦裕子, 渡邊岸子. (2009). 遷延性意識障害患者の看護に携わる看護師のケア意欲の変容過程とその要因. 日本看護学会論文集:看護管理. 40, 213-215.  
<http://hdl.handle.net/10295/2363>
- 兵頭慶子, 藤岡智恵, 福島まきよ, 吉田なよ子. (2000). 看護職の職業意欲に関する研究: 脳神経外科病棟における意欲を高める要因と削ぐ要因. 広島県立保健福祉短期大学紀要. 5(1), 19-24. <http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/pu-hiroshima/metadata/3538>
- 稲野辺奈緒子. (2015). 遷延性意識障害患者における観察の仕方: 看護師の知覚・感知に焦点を当てて. 日本看護研究学会雑誌. 38(3), 136.
- 稲野辺奈緒子. (2020). 遷延性意識障害患者を看護し続けてきた看護師が患者との関わりにおける確かさを感じるまでのプロセス. 秀明大学看護学部紀要. 2(1), 13-21.  
<http://doi.org/10.34378/00000027>
- 紙屋克子. (2006). 声なき声を聴きながら: 意識障害患者の QOL 向上をめざして. 臨牀看護, 32(3), 362-365.
- 萱間真美. (2007). 質的研究実践ノート: 研究プロセスを進める clue とポイント. 医学書院.
- 小林秋恵, 當目雅代. (2010). 急性期病院において慢性期意識障害患者をケアする看護師の心理の構造. 日本看護研究学会雑誌. 33(5), 83-92.  
<https://doi.org/10.15065/jjsnr.20100419008>
- 厚生労働省. (2020). 患者調査の概況: 傷病分類別にみた施設の種別推計患者数 [ウェブサイト]. <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/20/index.html> (検索日: 2023年1月23日)
- 縄秀志, 矢野理香, 佐居由美, 大橋久美子, 樋勝彩子. (2016). 交流セッションIII「気持ちよさ」をもたらす看護ケア理論の開発に向けて. 日本看護技術学会誌. 15(1), 25-28.

- 縄秀志. (2016). 「気持ちのいいケア」は、患者と看護者のその人らしさを支える！. 看護教育. 57(5), 338-345. <https://doi.org/10.11477/mf.1663200493>
- 縄秀志, 佐居由美, 大橋久美子, 樋勝彩子. (2019). 「気持ちよさ」をもたらす看護ケアに対する看護師の認識. 聖路加看護学会学術大会講演集. 24, 39.
- 西村ユミ. (2001). 語りかける身体: 看護ケアの現象学. ゆみる出版.
- 岡知子, 原かおり, 神田光恵, 澤田由美, 大橋美由紀, 小原八重子. (2008). 脳神経外科病棟における重症意識障害患者への関わり: 脳神経外科病棟に勤務する看護師へインタビューを実施して. 成人看護II. 39, 128-130.
- 大橋久美子, 縄秀志, 佐居由美, 矢野理香, 樋勝彩子, 櫻井利江. (2017). 国内における「気持ちよさ」をもたらす看護ケアに関する統合的文献レビュー. 日本看護技術学会誌. 16, 41-50. [https://doi.org/10.18892/jsnas.16.0\\_41](https://doi.org/10.18892/jsnas.16.0_41)
- 大坪賢治, 大久保暢子. (2019). 重症くも膜下出血に対する看護師のケア提供内容の検討: patient-centered care の視点から. 日本ニューロサイエンス看護学会誌. 5(2), 71-79.
- 太田富雄. (2021). 第3章意識障害. 中富浩文, 松谷雅生(編), 脳神経外科学I (pp.213-273). 金芳堂.
- 境美穂子, 工藤せい子. (2013). 脳・神経系病棟に勤務する看護師の倫理的問題に関する研究. 日本看護倫理学会誌. 5(1), 63-70. [https://doi.org/10.32275/jjne.5.1\\_63](https://doi.org/10.32275/jjne.5.1_63)
- 笹木絵里子, 高野真理子, 山本眞弓, 中村美晴, 渡辺砂織, 松崎洋美, 近藤留美子. (2016). 遷延性意識障害患者に関わる看護師の心理変容過程と職業意欲の関連. 北海道看護研究学会集録. 56-58.
- 佐々木真美. (2006). 遷延性意識障害患者の写真・生活史の呈示が看護師の行動変化に及ぼす効果. 日本看護学会誌. 15(2), 131-142.
- 佐々木美和子, 佐々木真紀子. (2014). 遷延性意識障害の患者を看護し続ける看護師の経験. 秋田大学保健学専攻紀要. 22(1), 45-57. <http://hdl.handle.net/10295/2363>
- 島田多佳子. (2017). いかにして患者の「気持ちいい」は生まれるのか. 日本看護協会出版会.
- 土屋涼子, 三上佳澄, 會津桂子, 西沢義子. (2017). 意識障害のある患者に対する看護師の観察に関する実態調査: グループインタビューからの分析. 日本看護研究学会雑誌. 40(4), 613-621. <https://doi.org/10.15065/jjsnr.20161118003>

網元亜依, 一條明実, 升田由美子. (2021). ICUにおける意識障害患者に対する日常生活援助の実施に至る看護師の臨床判断. 日本看護学教育学会誌. 31(2), 69-79.

[https://doi.org/10.51035/jane.31.2\\_69](https://doi.org/10.51035/jane.31.2_69)

梅垣弘子. (2018). 遷延性意識障害高齢者のプラスの反応を引き出すケアの構成要素と看護師の変容過程. 老年看護学. 23(1), 94-102. [https://doi.org/10.20696/jagn.23.1\\_94](https://doi.org/10.20696/jagn.23.1_94)

矢野理香, 大橋久美子, 菱沼典子. (2008). 「あー気持ちいい」を引き出す看護現象: 4事例を通して. EBNURSING. 8(4), 404-410.

矢野理香, 石本政恵, 品地智子, 飯野智恵子. (2009). 脳血管障害患者における手浴: 7事例の検討を通して. 日本看護技術学会誌. 8(3), 101-108. [https://doi.org/10.18892/jsnas.8.3\\_101](https://doi.org/10.18892/jsnas.8.3_101)